

皇國農民同盟歌

(ア、玉杯：：：：ノ節)
又ハ
路ハ六百里：：：：ノ節

一、國運隆々三千年

護國の礎こつこつと

業きあげたる農民の

牛馬にまさる勤勞と

犬猫すらも耐えやらぬ

繼れし勞苦人知るや

二、祖先代々耕やし、

血潮と汗のにちみたる

魂魄宿る傳來の

畑に作物養ふとき

田の面に水の滲るゝ時

涸の雨乞ひ幾度ぞ

三、熱暑に田の水湯とわきて

草取る手足の焼ける時

あしたに露を踏んで起ち

夕べに星を仰ぎつゝ

身を粉に碎き育てたる

八千萬の生命草

四、吾等は骨身を厭はせじ

吾等は勞苦を物とせじ

さはさりながら安住の

家は破れてつくろえず

子等には食はず食はなく

妻には着せる衣なし

五、營養不良と病弱を

見て見ぬふりの斷腸の

思ひを胸に刺らきて

尙ほ働らきて手を見つゝ

手當の叶はぬ貧しさに

血の出る借金増すばかり

六、寒さに練りし筋骨も

暑さに鍛えし體力も

貧苦のために衰えて

力なくなくもがくとま

こゝ高らかに轟る

皇國農民同盟歌

七、協力一村一部落

一致團結手をとりにて

皇國農民同盟歌

大空高くふりかざし

貧乏退治の戦線に

犠牲となりて跪ればや

(貧乏退治の戦線に

犠牲となりて跪ればや)